



士会だより



「各部だより」

巻頭言

p. 2

各部だより

p. 3-9

INFORMATION

p. 10-11

数珠繋ぎ

p. 12



「理学療法の基礎の基礎」

一般社団法人兵庫県理学療法士会
理事 井貫 博詞

兵庫県理学療法士会(以下、県士会)の会員の皆様、平素より県士会の活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

私は、平成3(1991)年4月より理学療法士として勤務し、2年目より西播ブロック運営委員として県士会活動に初めて参加させていただきました。その後、研修部や全国学会の広報など約15年経験させていただき、しばらく一会員として県士会活動を見守ってきました。そして、令和5(2023)年7月より新たに理事として、再度県士会活動に加えていただきました。

その間、時代の変遷とともに理学療法の価値観や理学療法士自身の活動範囲など、多様に変化しており、理事として戸惑うことばかりの2年間で来ようとしています。会員の皆様も理学療法士として戸惑うことが多くあるのではないのでしょうか。このように戸惑った時、皆様はどのように対処されているのでしょうか。私は、基本的に原点回帰するように自問自答しています。

理学療法とは何をする業種なのか、何をするのが仕事なのか、その原点は法律にあります。つまり「理学療法」とは、身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マツサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう。ということです。加えて平成25(2013)年には、介護予防事業等も理学療法士の名称使用も可能となりました。

理学療法士によっては、この法律はすでに時代にマッチしていない、と異を唱える諸氏も多いと認識しています。では、我々が理学療法士として業をなす根拠とは、つまり「理学療法の基礎の基礎」は何なのでしょう。

私は、「基本的動作能力の回復を図る」ことが基礎の基礎(根拠)であり、このことを如何に患者さんに、利用者さんに、社会に、世界に還元できるか、ということを考えるようにしています。個人的に、急性期の医療機関で長く勤務しているため、このような思考に陥っているのかもしれませんが。

今、本邦では急性期の理学療法が立ち後れています。日本理学療法士協会も国に要望書を提出しており、県士会においてもマルチモビディティ対策事業として、次年度は「回復期」への事業に加え、「急性期」についても研修等の事業を行っていく予定です。

年度替わりの何かと忙しい時期ですが、今年度は如何でしたでしょうか。次年度も県士会として色々な企画や事業を準備しています。引き続き県士会活動への更なるご支援ご協力を何卒よろしくお願い致します。

各部だより

災害対策部

第4回大阪BHELP標準コースに参加して

2025年2月1日に愛仁会リハビリテーション病院で開催されたBHELP標準コースに参加させていただきました。BHELP(Basic Health Emergency Life Support for Public)とは、災害関連死を防ぎ、支援を必要とする人に必要な支援を届けるためにできることで、被災地での活動を効果的に実践するために、講義では災害対応における知識や共通言語を学び、演習ではグループになり、発災前にはどのような備えが必要で、発災後にはどのように避難し、避難所の運営を行なっていくのかを学びました。グループは様々な職種の方(PT、救急救命士、看護師、心理士、行政職員)がおられ、演習を通して各職種の専門性を活かした色々な意見を聞くことができ、講義の内容がより深まりました。普段の仕事でも感じることですが、一人でできることは少なく、色々な方々と協働して考え、一つ一つより良いと思われる選択をしていくことが災害時でも重要だと感じました。また研修で印象的だったことは、発災直後の避難所の環境は明治時代からあまり変わっていないということでした。現在でも避難所に布団を持ち寄り、床で雑魚寝するというような状態から始まり、個人に配慮した避難所生活の環境が整うまでにはまだまだ時間がかかっています。そのような中で、避難所には様々な方が避難して来られるため、その状況に応じた「避難所運営」というものが大変重要だということを学びました。そこで私たち医療従事者が避難所の環境整備を運営・サポートできる支援者にもなり得ることを知り、いつどこで起こるかわからない災害に共通の知識を学んでおくことは助けになり、とても大切だと思いました。

今年は阪神淡路大震災から30年ということもあり、メディアでも震災や災害について多く取り上げられています。今後も増えていく災害に対し、私達はやはり平時からの備えが大事ではないでしょうか。「災害支援」というと少しハードルが高く感じるかもしれませんが、私たち専門職は現場で支援者にもなりえます。災害支援を学ぶことで微力かもしれませんが、少しでも貢献できることがあるように思いました。BHELP標準コースは災害対応の基礎的な知識や流れを大変分かりやすく学ぶことができました。今後も災害に対する知識をブラッシュアップし、研鑽を積んでいきたいと思います。ありがとうございました。

後藤 美穂(神戸リハビリテーション病院)



各部だより

保健福祉部

地域ケア会議推進リーダー導入研修のご報告

2025年2月2日(日)に保健福祉部主催の「地域ケア会議推進リーダー導入研修」にファシリテーターとして参加しました。部員として、また一PTとして、学んだことを以下に報告させていただきます。

はじめに但馬長寿の郷地域ケア課の中西 智也先生より、日本の人口構造をはじめとする医療や介護分野における実態や課題とともに、地域包括ケアシステムの必要性和理学療法士の役割についてのご講義を頂きました。

今年はいよいよ団塊の世代が75歳以上となる2025年です。私は臨床9年目を迎えますが、学生の頃から2025年には自分がどのような現場にどのように携わっているだろうかと考えながら日々の職務に取り組んできました。この9年間、職場で感じた変化として、認知症高齢者の増加、整形疾患を有する後期高齢者の急増、単独世帯の増加やマルチモビディティ(多疾患併存)患者の増加などが挙げられます。その変化に対応するように当院では多職種連携をさらに充実させ、病棟カンファレンスが複数回定期的に行われるなど、退院支援に力を入れています。今回の研修を通して、今後も私たち理学療法士には、疾患別アプローチのほかに、退院後の生活支援をより求められるようになっていくだろうと再認識しました。

つぎに、保健福祉部員から地域ケア会議についての概要、兵庫県での具体的な開催状況、県下の地域ケア会議に参加されているリハ専門職からのインタビュー内容についての説明と報告がありました。今回はオンライン開催でしたので全国各地から参加者がありましたが、自身が勤務している地域での地域ケア会議の状況や参加方法などをどのように調べればよいかなどの質問が挙がり、みなさん、地域ケア会議への参加に大変興味を持たれている様子を伺うことができました。

午後からは、地域ケア会議への出席を想定して模擬事例を用いたグループワークを行い、私たちの強みである活動できない要因を個別評価し、生活機能の予後予測をICFに分類して、提示された個別課題「以前のように友人と公園で交流ができるには」に対する解決課題を導き出し、自立支援の可能性についてのディスカッションを行いました。

参加者には地域ケア会議に参加したことがある方もおられ、地域ケア会議で的確な助言を行うためには、実際の高齢者の生活が介護保険や医療保険のフォーマルサービスだけで成り立っている訳ではなく、インフォーマルな人のつながり(家族や近隣、老人会、ボランティアなど)の大切さを理解できている必要があることも学びました。これにより、心身機能の改善のみでなく活動から参加への自立支援に対して具体的な助言を行うことができ、理学療法士が相談者として役に立つ存在であると他職種に知ってもらうきっかけにも繋がることがわかりました。

今回の研修を通して多くのことを学ぶことが出来ましたが、次なる課題として、団塊の世代のさらなる高齢化が進む2040年に向けて、重症患者の増加と団塊世代の看取りにどのように対応していくのかを考える契機ともなりました。次は15年後の姿を想像しながら、今後も変化に対応していきたいと思えます。

保健福祉部員 吉崎 真(神戸平成病院)

スポーツ活動支援部

中播磨支部スポーツ講習会

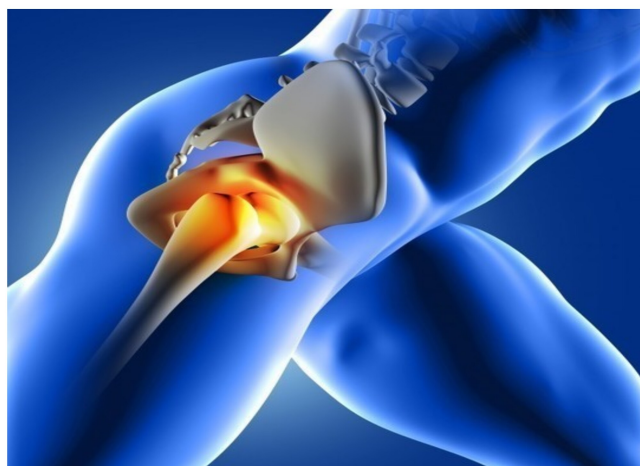
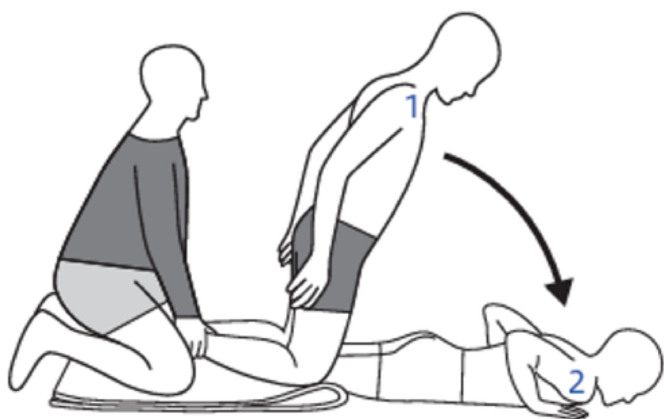
11月9日(土)に段医院にて股関節のスポーツ障害の講習会を開催しました。

参加者は8名、スポーツ活動支援部 神戸百年記念病院の村岡潮美先生に股関節スポーツ障害の病態、応急処置からトレーニングなどを実技も取り入れながらご講義いただきました。特に中播磨支部では、姫路城マラソンの活動があることから、マラソンでも遭遇する可能性のある肉離れの内容を多くとっていただきました。

実技では、ハムストリングの肉離れ後のストレッチ、トレーニングを参加者にも体験してもらいました。ハードなトレーニング内容も含まれており、実技も盛り上がり、良い雰囲気講習会を開催することができました。

中播磨支部では、今回の股関節スポーツ講習会が最後となり、全7回の講習会を受講された先生方に修了書を授与しました。

中西 拓也(北播磨総合医療センター)



【参加者の感想】

第7回は「股関節」のスポーツ障害について研修をしていただきました。股関節周囲のスポーツ障害の疫学からプログラムの考え方に加え、実際にアクティブなトレーニングを経験し、アスレチックリハビリテーションプログラムの引き出しを増やすことが出来ました。

今回で中播磨支部でのスポーツ理学療法講習会全7回が終了しました。どの研修会も普段の臨床からスポーツ現場活動に活かせる内容であり、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。また、スポーツに関わる近隣病院のセラピストと横のつながりも作ることが出来たことも大きな収穫でした。この2年間で学ばせていただいた内容を今後もスポーツ現場で生かしていけるよう精進していきます。

田中 匠(仁寿会石川病院)

スポーツ活動支援部

『兵庫県高校野球指導者講習会』

2024年12月14日(土)、関西国際大学第二グラウンドで高校野球指導者講習会が開催されました。スポーツ活動支援部野球班と協力スタッフの6名で「野球選手の障害予防」について選手への実技指導を行いました。去年はグラウンドコンディションの関係で十分な指導ができずにいたのが悔やまれましたが、今年は好天に恵まれ予定していた全4セッションを無事実施することができました。参加いただいた選手へ障害予防に必要なストレッチやパフォーマンスアップにつながるトレーニングについてしっかりと伝えることができました。

上原 拓也(東浦平成病院)



【参加者の感想】

今回、兵庫県高校野球連盟主催「関西国際大学指導者講習会」に参加させて頂き、故障防止をテーマに県内の選手にストレッチを指導しました。ストレッチ前後での身体の変化を感じてもらい、パフォーマンス向上についての知識も説明しながらストレッチを実施してもらいました。自分自身も1セッション担当させていただきましたが、先輩方と比べてまだまだ知識も指導力も不足していると感じました。障害予防の重要性を少しでも印象付け、持ち帰って多くの部員に伝えてもらうためにも、指導する側も上手く伝える努力をしていきたいと思います。今後も多くの選手が怪我無く、最高のパフォーマンスを発揮してもらえるようにスポーツ活動支援部の行事に積極的に参加していきたいと思います。

柳澤 龍登(兵庫県立リハビリテーション中央病院)



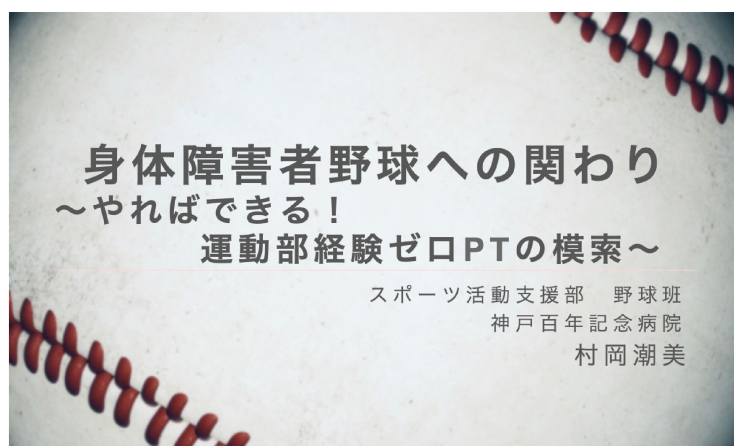
スポーツ活動支援部

『身体障害者野球への関わり

～やればできる！運動部経験ゼロPTの模索～』

2024年12月14日(土)神戸市教育会館で今回は4時間の講習会でした。初めに美舟 泰先生(神戸大学医学部整形外科教室)に障害予防についての座学を行って頂きました。その後、山田 和希(公立浜坂病院)、藤井 祐樹先生(野球班班長 段医院)、上原 拓也先生(野球班 東浦平成病院)で成長期のスポーツ障害予防のテーマで実技中心に講師を務めさせて頂きました。参加者は、学童・中学で選手の指導に当たられている、監督・コーチ30名でした。私も昨年度に同じ講習会を受け、この1年間に自身がヘッドコーチを務める日高少年野球団(豊岡市)で、テキストにある体操やストレッチを子ども達や保護者へのアドバイスとして活用してきました。その中で、コーチとPTのどちらの立場でもある私は、それぞれの立場や視点の違いにより、双方の求める内容に違いが出てきてしまうという事を感じました。これはスポーツに関わらず、臨床においても日々私たちPTが感じている事だと思います。例えば、専門の立場からのアドバイスが、指導の現場では人員や知識の不足などにより、活用出来ないというジレンマが起こりうるという事です。しかし、指導に当たる立場の者は「専門性」と「根拠」を求めています。実際に講習会の中で「以前、病院に行ったが、PTからはこの筋肉が弱いです。それしか言ってもらえなかった。どうしたら良くなったのか？専門性の中で具体的且つ、日々行えるような指導が欲しかった。」との声もありました。

佃 美智留(いしもと整形外科クリニック)



【参加者の感想】

障害者野球創設の経緯や障害者野球に関わることになった過程、症例検討などの講義をしていただきました。一番印象に残っているのが、「PTとして何が提供できるか常に模索している」と言われていたところです。

但馬ドームで行われたコンディショニングブース運営に参加させて頂き、自分に何が出来るか不安と戸惑いの中で対応させて頂きました。選手の前向きな姿勢・スポーツにける本気度などを近くで感じる事ができ、こちらをもっと学んでいく必要性を感じました。今後も障害者野球に関わっていければと思います。たくさんの方々にもぜひ参加していただき、もっとよいサポートが提供できるように協力していければと思いました。

小松 卓也(公立八鹿病院)

スポーツ活動支援部

～シッティングバレーボール勉強会 活動報告～



スポーツ活動支援部では、2025年2月に開催されるシッティングバレーボール大会でのコンディショニングサポートに向けて勉強会を実施しました。2024年11月30日に兵庫県立リハビリテーション中央病院 理学療法室にてスポーツ活動支援部 シッティングバレー班の河野邦人先生、松本恵実先生より「シッティングバレーに関わる股関節の運動療法」をテーマに講義を実施していただきました。シッティングバレーでの股関節運動の特徴や競技特性を加味した運動療法を、実技を交えて実施していただきました。スポーツ現場ではもちろん、普段の臨床でも実施できる評価や運動療法でした。

村岡 潮美(神戸百年記念病院)

【参加者の感想】

股関節の構造や動きについての講義、実技を通して大変勉強になりました。私は腰を痛めていたのですが、今回の実技後に少し楽になったように感じています。実技を通して具体的なエクササイズを体感し、ストレッチの重要性と自身の体の状態を見直すきっかけにもなりました。今後は学んだ知識を日常生活やトレーニング、理学療法に活かし、健康的な体作りと臨床に繋げていけたらと思います。ありがとうございました。

長谷川 雄也

(西宮協立リハビリテーション病院)



スポーツ活動支援部

シッティングバレーボール大会サポート報告

2025年2月15日、16日にシッティングバレーボール大会でのコンディショニングサポートを実施しました。普段臨床で関わりの少ないパラスポーツプレイヤーに対して、実際にコンディショニングを実施し、貴重な体験が得られました。シッティングバレーは座位でのオーバーヘッド動作を行うパラスポーツです。それにむけて必要な可動域などの”獲得すべき機能的なゴール”を推論することはとても難解で、普段の臨床推論能力を向上させる有意義な機会になりました。7名のスタッフで2日間44件のコンディショニングを実施し、選手からのうれしい言葉も聞くことができました。今後も選手、サポーターが互いに有益な活動になるように運営して参りたいと思います。

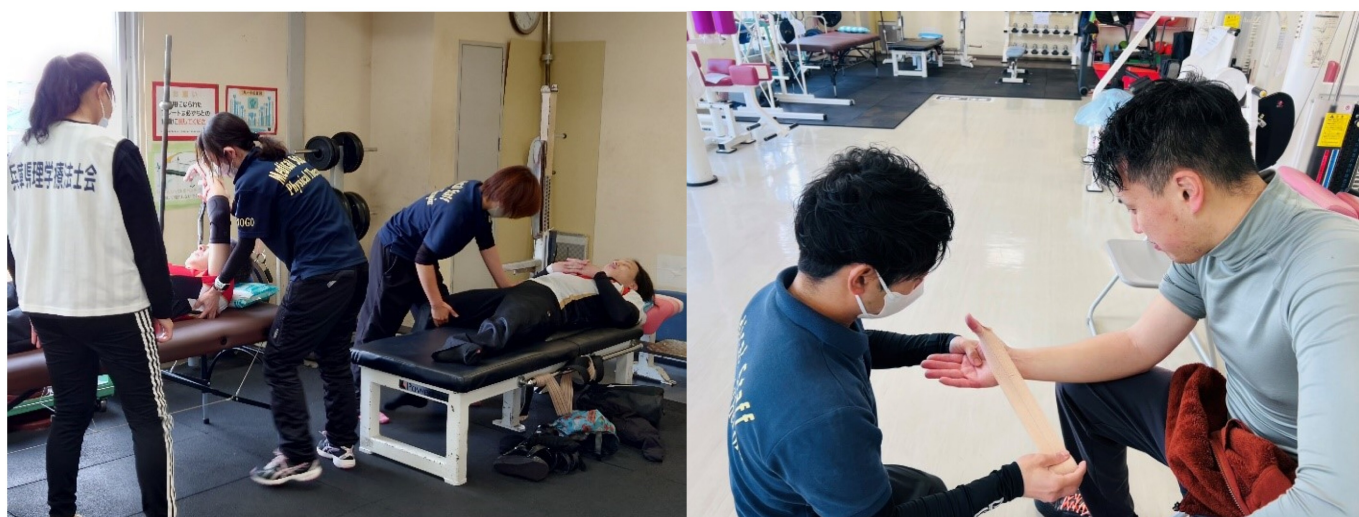
河野 邦人(松本病院)

【参加者の感想】

普段の病院で接することのない選手の方に治療することができ貴重な経験になりました。

職場の上司や先輩と違う先生方に新たな知識や技術を教えて頂いたのと、選手の方に治療できたり実際にパラスポーツを見学できました。本日学んだ施術を今後の臨床に活かせるように頑張りたいのと自分の解剖学など知識のなさを痛感しました。

藤本 亜弥(百年記念病



スポーツ活動支援部のサポートには日頃スポーツ選手に関わる事のない病院、介護施設勤務の理学療法士も多く参加していただいています。スポーツ活動を支援するサポートスタッフに興味のある方は、QRコードまたは兵庫県理学療法士会HPにアップされる「現場活動のお知らせ」、「勉強会のお知らせ」に是非お申し込みください。

皆さんとスポーツ活動のサポートができることを楽しみにしております。

【申し込み先】スポーツ活動支援部 中西拓也

e-mail: supokatsu2008@gmail.com



機は熟した

地域の未来を支える

理学療法の
挑戦と革新



第36回兵庫県理学療法学術大会

日程

2025

10/19(日)

大会長



中谷 知生

宝塚リハビリテーション病院

会場

但馬会場：但馬長寿の郷



副大会長 小森 昌彦 (但馬長寿の郷)

神戸会場：甲南女子大学



副大会長 堀 寛史 (甲南女子大学)

初の2会場
開催!!

大会運営事務局：第36回兵庫県理学療法学術大会 事務局
神戸市立医療センター中央市民病院
〒650-0047 兵庫県神戸市港島南町2-1-1
運営会社：株式会社プロアクティブ

HP

Instagram

X(旧Twitter)



～精鋭の教員陣による人間教育～

リハビリテーション学部 理学療法学科



神戸国際大学 リハビリテーション学部／経済学部
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6
TEL: 078-845-3111(代表) FAX: 078-845-3200

リハビリ訪問看護ステーション書 アスリートサポート部 ソーシャルメディア広報部

Steps

想いをカタチに

予防医療部 ウイメンズヘルス部 ICTサポート部

兵庫事務所 TEL 078-599-7990 FAX 078-330-3754
〒652-0033 神戸市兵庫区西上橋通 1-1-23 ヴィラ神戸 II 101
神戸西事務所 〒655-0013 神戸市垂水区福田 2-4-4 サン・リベラル 203



10学部7研究科、総合大学で豊かな人間性を育む
総合リハビリテーション学部

理学療法学科
・理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科
・作業療法士国家試験受験資格

総合リハビリテーション学研究科
大学院 修士課程・博士後期課程



神戸学院大学 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518
有瀬キャンパス TEL (078) 974-1551 (代表)

医療・福祉の仕事を通じて誰かの力になりたい。

その夢を叶える学校です。

神戸医療福祉専門学校中央校
介護福祉士科 鍼灸科 精神保健福祉士科
〒650-0015 神戸市中央区赤松通3丁目6番3号
URL: <https://www.knmw.ac.jp>

神戸医療福祉専門学校三田校
理学療法士科 作業療法士科 言語聴覚士科
聴覚検査士科 救急救急士科 歯科衛生士科4年制
鍼灸科1年制 福祉科1年制
〒659-1313 三田市塩部501-85
URL: <https://www.knmw.ac.jp>

姫路医療専門学校
作業療法士科 言語聴覚士科 臨床工学技士科
聴覚検査士科
〒770-0207 姫路市宮前2丁目2番1
URL: <https://www.hmcc.ac.jp>

看護リハビリテーション学部
理学療法学科

女性だから、できるケアがある。
女子大学で、女性のための理学療法を学び、
リーダーシップがとれる理学療法士へ。

甲南女子大学
〒658-0001 神戸市東灘区森北町 6-2-23

理学療法学科公式サイト  理学療法学科公式 Instagram

創立51年の歴史を持つ医療の総合教育校

診療放射線科 臨床工学科
機能訓練士科 理学療法士科
作業療法士科 言語聴覚士科
歯科衛生士科 臨床工学専攻科

Since 1973 医療法人社団 慈恵会
KCC 神戸総合医療専門学校
〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目1番21
神戸総合医療 検索 スマートフォンはコチラ
お問い合わせはコチラ TEL 078-795-8000(代表) HP <https://www.kobecc.ac.jp>



医療で社会をつなぐ「医療社会人」を目指す

宝塚医療大学
TAKARAZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL and HEALTH CARE

保健医療学部
理学療法学科 柔道整復学科 鍼灸学科 口腔保健学科
和歌山保健医療学部
リハビリテーション学科 看護学科
観光学部
観光学科 2024年4月開設

10120-00-1239



解き放て、
医の力

実践的なIPEで、強い医療人へ

兵庫医科大学は、長年、看護・リハビリテーションの
分野で、神戸市立看護大学、神戸医療福祉専門学校と
連携し、看護・リハビリテーション分野で、医療従事者を育成した
1人1人医療従事者として活躍する人材の育成に力を入れています。

EMPOWER THE PEOPLE 心に響く医を、私たちがいるかぎり

医学部1年次第1期 看護学部1期 理学療法士学部1期 言語聴覚士学部1期
〒650-0192 神戸市中央区南長狭通4丁目1番101
TEL 078-330-3754 FAX 078-330-3754

H 兵庫医科大学



荻原記念病院
藤井 貴志氏

略歴

2013年3月
川崎医療福祉大学卒業

2013年～
兵庫県立リハビリテーション中央病院

2016年～
JICAボランティア参加

2018年～
やす整形外科クリニック

2024年～
荻原記念病院

資格

ファンクショナルローラーピラティス
アドバンスインストラクター

モットー

Where there is a will, there is a way.
(意志のあるところに道は開ける)

趣味

ゴルフ、映画鑑賞



これまで理学療法士として回復期病院、JICAボランティア、整形外科クリニックで働きたくさんの経験をさせていただきました。JICAでは現地の病院で従事する傍らリハビリ室を立ち上げたり、地域医療の充実化を図る活動を現地の方と共に行ったりと貴重な経験ができました。

帰国後はご縁があり整形外科クリニックで働きながらFRPというピラティスの資格取得や高校陸上部でのメディカルチェック、コンディショニング活動と自身のリハビリの幅が広がりました。

昨年度より患者様とより深く関わりたいという思いで再び回復期病院の荻原記念病院でお世話になっています。この病院ではPT、OT、STでの連携がとても充実しており様々な視点で患者様をサポートしていき、私自身も新しい学びが多くあります。また久々の回復期に戻り感じたことは患者様の疾患が多様化しているということでした。自身の知らないことが多くあり勉強することは山積みですが、少しでも早くジェネラリストなPTになり多くの患者様の力になりたいと思っています！

次回に紹介させていただくのは私の元同僚の先輩で昨年より開院した、たちはら整形外科に従事している佐々木貴哉先生にお繋ぎします。

県士会だより 第206号

発行

一般社団法人兵庫県理学療法士会

表紙写真

各部の研修会や活動時の様子になります。活動の様子や研修会報告は、ホームページ・SNSでも随時更新していきますので、併せてご確認ください。

発行責任者／間 瀬 教 史

編集者／筒 井 章 悟

ホームページ

<http://hyogo-pt.or.jp/>



一般社団法人 兵庫県理学療法士会

兵庫県理学療法士会事務所 所在地

〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通5丁目5-22 4階

TEL 078-367-7311